





門水加  
番 625  
卷 4止

假名字例卷四 自安至寸



あ 安

ありあけ有明 又耽羅 明也 わとうらぎ 滄溟

あんゆき ヤケトヨム 沫雪 万葉附めん泡 又あんゆき

あまうらぐ 霑 あまうらぐれ氏附 又あまうらぐ

あまのくに 阿波國 附安房 国月訓 わんらま 淡路嶋 日本紀 此嶋最

初ニ生ス 由アリ わづま 東 又吾妻 又鴻都

あうしう 奥列 此國ヲ割テ出羽トス あふらまうら 阿漕川 陸奥 郡名



あふれた 近江國 音淡海下云後代名近江

あさひな 朝夷 安房郡名 あまは

あゆうら 愛甲 相模郡名 あすは

あふこ 會見 伯耆郡名 わねりんら

わぐぬ 安谷院 洛陽有之 あふ

あふんり 青墓 美濃郡名 あふた

あふんり 青墓 美濃郡名 あふた

あふんり 青墓 美濃郡名 あふた

あふんり 青墓 美濃郡名 あふた

あふんり 青墓 美濃郡名 あふた

あふんり 青墓 美濃郡名 あふた

あふんり 青墓 美濃郡名 あふた

あふんり 青墓 美濃郡名 あふた

あふんり 青墓 美濃郡名 あふた

あふんり 青墓 美濃郡名 あふた

あふんり 青墓 美濃郡名 あふた

天羽 上總郡名俗云

足羽 越前郡名

姉輪松 出羽名所

安武 長門郡名俗云

青嶺 大和名所

粟田 山城名所

逢坂 近江名所

射塚 又作塚古訓云

射塚 又作塚古訓云

射塚 又作塚古訓云

朝夕 あさゆ

穴生 石切コト

鯖 又云鱈魚大又云青魚小

鯖 又云鱈魚大又云青魚小

音淡海下云後代名近江

安房郡名

相模郡名

伯耆郡名

洛陽有之

美濃郡名

ト云

近江名所

近江名所

近江名所

順倭ナリ愚案ニ訓母案主ナレハ是ヲ以射ヲ試警ハ案文案書ト云カコトキ乎

拱律

鸚鵡 礼記曲礼鸚鵡能言不離飛鳥註鸚鵡鳥之慧者隴蜀嶺南皆有之

妯娌

鷓鴣

あまは

あすは

あふた

あふた



わんたう

白鷹

わら

鱒

わんび

石決明

俗鮑トカク誤也鮑トカク又草決明ハ  
正カサト訓ス共ニ主前自故曰決明

わんじし

押領使

主

わんじし

相生松

樗

又棟和名  
雲見草

わんじし

陟登

俗青苔古書わんじしハ  
アリ不可用之他準定

わんじし

防已

わんじし

紫陽花

又ハ  
草花

わんじし

蔓菁

わんじし

藍

附わんじし  
又苧苧子白

わんじし

青出之藍而  
主於藍

わんじし

粟

附わんじし  
五穀惣名也

わんじし

青柳

俗柳又  
謠物名

わんじし

葵

異名  
衛足

わんじし

牽牛

俗朝顔ト書ニ種アリ常ニ牽牛花ヲ云又  
舞ト木槿ハニ字彙舞字注云木槿朝華

わんじし

落暮

わんじし

浅茅生

又ハ  
原

わんじし

小豆

わんじし

杏

わんじし

扇

わんじし

朝生酒

わんじし

藍小掛

衣類也

わんじし

障泥

唐韻韞  
又蔽泥

俗わんじし或ハわんじしトカク非ハわんじしト云テ其理ヲ可  
考相通テ源氏浮舟卷ニわんじしと云いてトアリ

わんじし

青幣

握手コウ  
有又白



わどろ 網代又ト一本 わさづね 朝餉

わさづね作掃 漬柿非 わどろ 簀

わけね丹塗 赤曾宇船船也

あしせ 裕 わづさゆこ 梓弓

あせぬ贈等ニ用又あ 汗拭 わすれ 將酉又和アユル

あやぐ 仰又ああ わさび白馬節會 贖納金

あひど 間又際 わまき 刺 欺今案あさ

あやう 怪あや わらう 交又間詩 無愛又無

あひハ 或 わへて わひあふ 相逢引合

あてぐみ 擬 わてどころふ 宛行

あまき 懇伊勢

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき

あまき



わうごうらく中央樂黃鐘調内わうて

與又予

わらうひ 味附わらうらく宜字之

わなづる 慢又暖又あなわなごうらうさ左右又往様

わなひり 青丹吉万葉ニあそびに

わつこて 誂あつわさまひ 商賣声シヤウ

わづぶひ 争諍月又論わんぎ 喘息

わんくー 淡今敷 わんすず 露顯一字ツモ

わなごうと 穴貴又安名尊氏催馬

わらうまー 無為史記又日本紀ノ和訓

わさうら 紀日本わんれじ 憐又聡

わつうひ 扱又哆わんりもれ 似あやうり

わうらんちり 粗外露顯わなうめ 穴倦目古今

わんごん 安穩 わまらふ 耳又酣

わらふ 洗又濯常ニセシわひーらふ 應言答又待

わいさやう 愛敬又あひげうわらぶまうけ 響應あひま

わいさやう 皆用所ニヨル



わんそくしり周章 わんそくしり 踠馬ノ

あさひ 朝寢 外ニヨリテの上用タル古例アリ

あつうどめ 豫 期後ヲ意 直部 人姓

あまた 穴太 人姓 わねくろ 藍原 人姓

九

乾坤 さつこ 雑太 越後郡名 さつこ 迎瑳 下総郡名

さうぼ 相馬 下総郡名又人姓 さへさ 佐伯 安藝云郡名又人姓

郡内ニ一山ト云名所アリ さつこがハ 澤田川 山城名所

さめぐね 醒井 近江名所 さか 佐保 大和名所山守川有

さいはひれん 幸橋 筑前名所又伊勢ニ さといれん 堺浦 和泉名所

さうへん 藻壁門 大内十門ノ其一

さうりー 曹司 局ノ義 さうせん 早天 一朝

氣形 さうふ 巢父 この字ニ詳シ さんたう 山濤 七賢ノ内

さいせれんご 齊宮女御 又村ノ女御也

さくねん 道祖神 是旅行ニ祭ル神ニ書ニ故事云昔黄帝ノ子壘祖好遠遊死於道後人以為行神

さかひめ 佐保姫 春ヲ領スル神ナリ



さうじん

相人 人相見者之相人編神相  
全編三世相等ノ書アリ

さうひ

侍 又士又  
候人片

さんざう

三藏 經律論  
通スモク

云羅什一  
等

さうがう

莊子 名周字  
子木宋

人在戰國之時與孟子同時隱遁  
而放言者也所著之書名以莊子ヲ

さうどう

曹洞宗 曹山洞山元祖也曹山名本寂洞山諱良  
价唐宣宗之時代僧也然而曹山者洞山

之嗣子也今不言洞曹而言曹洞者亦猶慧遠者慧  
持之的兒但言持遠而不言遠持之類蓋順語便也  
日本曹洞之祖道元是也元諱希玄京兆人也村上  
天皇九代之後胤源亞相公通忠子也初睿山良顯  
法師之門弟貞應二年入宋于時寧宗嘉定六  
年也見天童淨和尚得道建長五年癸巳八月廿八日

亦寂  
云云

さぐえ

榮螺

さうり

鱈

さうり

牡鹿段 又棹麻  
又勇一尺

さうり

象

さうり

里長 又一骨  
トモ

**生植** さうりぎ

弱檜

さい

菜 野一常ニ  
ト訓ス

さうけう

皂莢

さんざうじん

酸東東仁

さうぎ

蒼木

さんざう

三稜

さんせう

山椒

さいたづま

若草ノ事也

さうび

薔薇

草ナリ古今物の名又  
源氏ニモ出タリ



服器 **さつづえ** 鑄 鋤類

さか

竿 又擣

さく **筮** 双六角子

さねはの

簪 犀角ナリ

さうめん **索麵** 倭訓

さうり

草履

さうま **棧敷**

さど

茶匙 下學集

さうぐう **草藁**

さげたび

降帶 附さげせ降緒

さうぢやう **三毬打**

又一杖又爆井袖中抄云十節録黃帝取蚩尤頭毬之今之毬杖是之以下略之

雜事 **さうぐう** 閑寂 又下字計モ

さうぢ

閣

さうてう **雙調** 四月

さうえ

榮 又昌

さえ **戈** 声ガイ

さねたうひ

前駟

さあへ **候** 又侍まふ思

さうめら

贓物

さうり **障** さうりトモ

さうひ

境 又堺

さうら **授受**

さんよう

筭用

さうれい **喪禮** 又葬礼義少異

さいもひ

幸 又貴福又臣妾

用テル、  
ヲ云

さんやう

爽

さうわ **相違**

さうさく

造作 トモ

さえ さやう

寒 又冷又返附声ノサエハ亮見詩鶴鳴之註



草創 盪觴ノ義也

雜用 附一言

遮 卷

轉鳥 一又海士

無惡

再興 真略

左遷 又伶

掃除

最勝講 於清涼殿一王經

騷動 上字計

相生 木生火火生土土生金金生水水生木等之又相剋

支 けさつ

雀部 人姓

火剋金金剋木木剋土土剋水水剋火等也

早 日本紀

投梭間 暫時ノ義

酒飲 又一給又さかひをうべし訓

幾 き

昨日

祇園 素盞盞

清河原 大和

伊勢

氣形

各所

雉 又野雞氏本朝

競馬 氏賀茂

是之鷹鳥云

許由 字武仲許

六日右近騎射也

由巢父皆

右宮

許由

後宮

許由



隱人也竟讓天下於許由許由不為晉之至潁川洗其耳巢父欲飲牛而又聞許由洗耳故而又為汚而不飲牛此事好事者說雖更不足取世多知之仍以記可考高士傳莊子

ぎやうき

行基

泉州人聖武帝信之寂後賜菩薩号

きんたふ

公任

藤原大納言村上帝康保三年生後藤原萬壽三年出家

ぎよやう

魚養

朝野宿称也光仁帝時人能書也空海ノ手ノ師也

生植 きげう

桔梗

倭訓アリノヒキ古今集物名ヨリ

きんらん

杏仁

きりん

木棉

又少出

服器 きうう 龜甲

ぎざり

擬寶珠

橋ノ貝又作法

珠

きんらん

纈纈

きやうじら 香匙火箸也

雜事 きざやう 議定

きんらん 傾杯樂

大食調樂

きんごうてん

乞巧奠

七月廿二星ヲミル湯屋ハイヌカトキ牽牛隱星ハタナハツメ織女

きんもろ

極又窮

きん

嫌

きんたい

及第

漢ヨリ始ル

きん

際又限又極

きめう

奇妙

きびん

稚

日本紀

きめり

來居

又木栖

きめり

列四

十



きえ きや

消 附けぬ消をいひ又不消を  
よるよるく

きこひ

冶 鉄也

給事 君父師  
ツカスル

義也又卿食應ノカキ也  
俗官仕トカク大ニ非也

きこえ

聞 きこひけう

吉凶

きず

疵 又瑕手

ぎろくろく

行幸 天子出  
御也

仙院ハ御幸諸共  
行啓一云

きよらう

虚勞

きろくろく

驚風 兒病

きろくろく

境涯 涯又  
作界

由

乾坤 ゆきほし

大白星 暮ニ見テ西方星又ゆきほし  
長庚則大白星ノ一名ナリ

ゆきしら

白雨 又暴雨俗  
夕立ト云

ゆきほし

夕月夜 又夕  
附夜

古今ニゆきほしト云  
のこよほしト云

ゆきほし

結城 下総  
郡名

ゆきんぐい

木棉葉川 豊後  
名所

氣形 ゆきほし

夕告鳥 雞ノ  
コト也

遊行 時宗  
上人

生植 ゆき

柚柑

ゆきほし

楪

ゆきか

夕顔 又源氏ノ  
巻ノ名

ゆきほし 雪下折  
木章  
ニ云

服器 ゆき

湯桶

此一字讀一字声ヲユタツ  
ヨミト云是ナリ



ゆえん

油煙

ゆよ

木棉

作綿 誤ナリ

ゆよてーし四手ゆたすまーし擧等之又まぬき  
ゆよ浪白ーしゆんまゆみ浦濱ーし等ニモ

**雜事**

遊字女

盤涉 調業

ゆよま

有識

ゆい

幽靈

ゆいて

往

作往非 又行

ゆう

優長

ゆうく

悠々

ゆあ

浴

付めんあ

ゆへ

故

ゆき

夕去

ゆきま

夕暖

ゆき

ゆきま

ゆきま

行末

又向後氏 中思りて

ゆう

宥免

ゆう

結

ゆへに候てゆへにあ

ゆい

ゆい

ゆい

夕

又晚

ゆい

納采

婚礼也 俗ニ結納

ゆい

結

ゆい

行違

ゆい

由々

ゆい

鞞負

ゆい比左右衛門左右兵衛ヲ云衛門兵衛ハ檢非違使兼ルニ檢非違使ヲ一廳ト云也源氏ニケヒノ命婦トアル女ニ男官ヲ付コトナリ常ノ例ナリ

**あ**

空海ノ以呂波ニ面ノ字ヲ用俗女ノ字トスル誤也  
女ハヨニ也中華ノ草書面ヲめニ作ルアリ

空海



**乾坤** めだう

馬道

順修ノ注ニ向堂道也源氏相疊ニ一ノ戸とさしころ向抄縁ツクキノ戸

**氣形** めい

姪

めらう

女童

又めのり

めうらう

妙樂

名ハ湛然也初メ智顛字德安ト云有リ智者大師凡云陳隋二代ノ帝ニ見エテ師範トナル天台ノ佛隴寺ニ住ス仍テ天台大師凡云法華經ノ題号ヲ釋スルヲ玄義ト云經章ヲ釋スルヲ文句ト云又別ニ觀心ノ事ヲ述ルヲ摩訶止觀ト云是天台ノ弟子章安灌頂筆記ス都テ三十卷本書ト云後妙樂玄義ヲ注スルヲ釋籤云文句ヲ註スルヲ疏記ト云止觀ヲ註スルヲ弘決氏輔行記凡云都テ三十卷未書也

附めうらん

妙觀

四十八代稱徳天皇ノ寶龜十一年庚申七月十八日撰列勝尾寺ノ講堂觀音像

めどと

夫婦

是ハカリテミル訓之兄弟ヲヲト井ト云類ナリ

めひ

磬

附あさひ清音順修ニ出古書ニ一ぬ

**生植** めんぎ

荒蔚

めいけい

莫莢

堯時知日數草

**服器** めらう

碼碯

七寶其一

めゆひこそて目結小袖

**雜事** めらう

目路

遠見ノ間ナリ

めざぬう

寂煩

源氏ニ

めまどろく

瞬

もろくナリ

めらう

珍

刻初之二十日而成八月十八日妙觀化〇觀音ノ日十八日ト云ト何ノ書ニモ不見妙觀カ死日十八日ナルニ定之ト云妙觀ノ元亭釋書ニ出タリ

めいけい召仕



ゆわらす

妻

娶 論語以其兄之妻之  
はまの時人倫ナリ

美

明星

ミウシ

三河

國三有  
河曰男川

ミウシ

御手洗川

俗

曰豊川曰矢  
作川故名

ミウシ

樗標

俗ニ  
分木

水穂國

水穂國

中臣核三豊若原トアリ倭國ノ名ト  
イハトモ惣テハ世界ヲ指トイハリ又日本紀ニハ

作瑞穂

ミウシ

渚

水淡

水淡

ミウシ

名田

明朝

明朝

元朝ノ次也又明朝ノ次ヲ云ント云清字ノ代  
名云ん云ん計唐音トナルト不穩

宮地山

宮地山

尾張名所  
矢作ニ近シ

三穂浦

三穂浦

駿河名所又作一尾附カ  
のまろリニ保松原

美豆野

美豆野

大和  
名所

箕面龍

棋列  
勝尾

山ノツ

ミウシ

三輪山

大和名所  
三諸山

也祝大物主神以  
杉木為主

ミウシ

行井

筑後  
郡名

水尾

水尾

近江名所又一ノ里丹波ノ内也山城塔發  
宕山下昔清和帝此里ニ栖玉ヲユニ水尾御

門ト  
号ス

水江浦

丹後  
昔浦

反例

七



鳥之子來ル所

五葉後撰

こねて

并寺 寺ノ字  
ノ所ニ委

ごうどごち

御厨子所

大内ニアリ四位殿上  
人為別當

氣形 ミ

赤子

俗若子  
トカク

こくし

龍耳

古書志  
おトモ

こす

蚯蚓

こびげ

木兔

生植 ミ

藁荷

籾

こつごさ

苻

服器 ミ

蜜人

又木乃伊氏本草人部ニ有但蜜人ハ木乃伊ノ注  
ニ出是ニイラト訓スキニ似タリ俗ノ用ニ任セ念記

さんごむ

三輪組

一井ノ具大和物  
語ル此ノミマシ

みづがき 水刷棹

舟指

みづがき

鞆

馬ノ具  
又三寸尺

雜事 ミ

見

附マシ  
目

とねろす

直下

とさか

操

一ハ不変ノ心ヲ云  
ニハ水ノ弁ホ也

とらび

根

又妄

とらび

短

今案ニ  
みちかし

とものま ミ 合交

日本紀  
神代ニ

とものま

措身

とつひ ツヒ  
体用有

宮仕

但倭字ニ礼記曲礼ニ官ノ字  
ラトヤツカトヨム

としか

御修法

ととカノ氏禁中ニ正月七日ヨリ  
十四日ニテ行ハル承和元年ヨリ始ル

とんこう

御八講

五十六代桓武天皇延暦十五年八月四日大和  
石淵ニテ權操沙門ニ詔テ初而令執行之是

依天皇之国忌也依此例六十二代村上天皇就母后之国  
忌天皇自写法華經天畧九年正月四日天台座主入内



弘徽殿ニ有御八講其後每年因息法性寺ニ被  
 行之又七十二代鳥羽院御宇依管空相夢之告云仁  
 二年二月廿五日山城国吉祥院ニ有八講ト云〇御八  
 講ト佛前ニ灯明香花等七種ノ飾ヲナシ云〇  
 學匠法華法門八座之論議有之  
 或ハ講或三十講モ有之

之

織女

星也夕チバタトモアリヒメ比訓又牽牛星ノ配ト云  
 書言故事ニ引具均齋諧記曰桂陽武帝  
 有仙道謂其弟曰七月七日織女當渡河暫詣牽牛  
 吾向已被召世人至今云織女嫁牽牛

磯輪上秀真國

日本ノ異名  
 出日本紀

鹽田百會

古ノ訓  
 旧記皆

如此今略ノ  
 考ヤト云

嶋隈輪

名所ニ  
 アラス

神泉苑

二条  
 大宮

龍芳舎

在禁  
 中雷

完栗

播テ  
 郡名

十陵

山階田原  
 柏原八嶋

志豆機山

駿河  
 名所

深草 後深草 後田原 後山階  
 中宇治 後宇治 是ノ一ト云

四序

春夏秋  
 冬ノ次第

笙窟

大和  
 名所

書院

志乃丸

名所

臘

十二月之  
 俗師走

志乃寸



ふぐりま

鹽竈

陸奥名所らえふぐりまト云モ一之是蟠谷  
六奈高倉ニウツス業平朝臣鹽竈まにソクミ

ヨムリ

おやがた

西洋

多出  
木棉

ふぢがもろ

下野

ふぢも

精舎

學者之居所  
又寺院別号

ふぢがもろ

舅

附ふぢがもろ

ふぢがもろ

神功皇后

入王  
四代仲

哀天皇  
右應  
神天皇母

ふぢがもろ

聖德太子  
用明  
帝第

ふぢがもろ

ふぢがもろ

慈鎮

法性寺  
白忠通公

ふぢがもろ

周公旦

文王子武王弟  
大聖人ナリ

ふぢがもろ

向秀

七賢  
ノ内

ふぢがもろ

諸葛孔明  
名亮

初耕隆中蜀先主劉備三顧於亮草廬而後臣  
之精軍旅大有武功作八陣圖本傳載蜀志五

ふぢがもろ

鰭

ふぢがもろ

鮎魚

順倭鮎  
魚俗自負

ふぢがもろ

白尾雁鳥

ツキオノト云  
一ナリ継一

ふぢがもろ

四手田長

郭公一ノ五葉ニ四重田長トカケリ古今  
誹諧ニくくニ田長トカケリ

ふぢがもろ

ふぢがもろ

師匠

ふぢがもろ

從者

奉り  
むんが

ふぢがもろ

諸侯

ふぢがもろ

猩猩

礼記曲  
礼猩猩



能言不離禽獸註猩人面豕身  
出交趾封谿等處○此獸好酒

まづれた

賤男

附一

まづる

唱門師

打金鼓歌

無常者也

まらやう

仕丁

倭訓マハレヨヲロ

まハ

皺

まこと

前夫

まろりん

章門

肝經灸穴

まろまろ

壽命

まろまろ

生姜

まろん

紫苑

ちとにトモ

まろま

糝順倭ノ注ニ有  
皮而無米也

まろ

推

附ちとに  
柴又一カ本源

まろま

氏卷

まろふ

芝生

まろえん

常山

まろりく

高陸

まろり

枝折

印折氏おトトけいたニホノ枝ヲ折草ヲハスヒテ山路ノシルストスルヲ云也新古ニ西行法師より

のふまのれを  
アハルアハル

まろま

蛇牀子

まろぬ

菖蒲

歌書等よ  
まろふと有

まろげう

秦苧

まろら

ト治

菌名和字

まろて

鞍鞍具

まろろ

酒肴

附ちと  
えり

まろい

宴

まろい

白粉

婦人  
面彩

まろた

敷妙梳

まろひ

下結紐

附下紐  
下帯



ちりくまき 註連 左繩ニスルリ 神道用之

ちり 鹽 俗作塩附と云 鹹 ちたうす

ちりやく 磁石 俗ギシヤ クト云 ちりなう 樟腦

ちんごう 矢頭 ちんごう 食籠

ちんごう 賤小手卷 小環 トモ

ちんごうえ 淨衣 ちんごうやう 錫杖 僧侶調 度

ちんごう 榻 人座之倭 為車具 ちんごうげう 聖教 佛經ヲ 指テ云

ちんごう 障子 附のりまをし明り 又はいりちりし明り

ちんごう 象戲盤 ちんごうい 鞞 古訓シラカキ 訓女尻懸也

ちんごう 助老 俗作助 非也 ちんごう 鹿間絆

ちんごう 醬油 ちんごう 鎖子

ちんごう 笙 樂器 也 ちんごう 牀机

ちんごう 後 附のりまをし明り ちんごう 咳嗽 すんちん トモ

ちんごう 聲歌 章雅氏附

ちんごう 辭世 終焉 詠 ちんごう 事相 經論 ヲ學

ちんごう 事 教相ト云行ヲ スルヲト云 ちんごう 慕

校刊



まがご

隨 又順 又從

まがいで

凌

まがくたう

石塔 座頭 之祭

まがひ

仕相 商人 詞

まひ

慈悲 法界次第ノ上曰能與他樂之心名之 為慈能拔他苦之心名之為悲

まひひぬ

仕佗畢 古書

まがねり強 まがて

まわご

云為 下ノ字計モ又 業俗ニ仕業

まんべう

神妙

まがやこ

序病 俗語 疹ノ未

發ノ時

まがぬ

除位 旧位ヲ除 新位ニ

進ノ 義

まがう

趣向 詩歌連 歌等ノ

まがく

霽 又瀝

まがう

始終

おたい

辭退

まつひ

補理 座ヲまつ らふニハ

飾ノ 字

まへたが

虐 俗セダク ルト云

まよさい

如在 俗疎畧ノ義ニ用フル非也論語為政ニ示如 在トアルヨリ起ル字ナリ不疎畧之義可用之

まらう

實要 伊勢物語いとまめよ ちらうにてトアリ

まろくえ

觸穢

まらう

尋常 ヨソツ子 ト訓又

まろもつ

什物 寺院累代ノ 器物ヲ云

まがら

凋 草木ノ葉又袖ヲモルナリ 但袖ニボルトヨム



あまきり 所望 せんびと 完人 人ノ姓

あかきり 哭 又塩垂 おおえん 入院 又後

あさきり 傷寒 ちんくひ 殿 又後

あさきり 將 大一中一ウ一武一 侍從 相當從五位下

恵

あさきり 越前國 附一中

あさきり 恵心奈 美濃郡名 ちんくひ 繪嶋 淡路名

近キヤ千載ニヨラキ吹飯の...

あさきり 會下 指城下...

あさきり 恵美酒 神第...

あさきり 恵心 横川ノ聖ト云又横川ノ僧都ト云...

あさきり 恵遠 晋之時僧住庐山池植百蓮...

あさきり 恵美押勝 考謙帝ノ寵臣

あさきり 衛士 衛門兵衛ノ被官火焼アリ

あさきり



あはこ 狗

あくが

曆

<sup>生</sup>あんど 槐

<sup>版</sup>あ 繪 又圖附  
多々畫

あさきり 易經 伏羲重  
卦文王

<sup>雜</sup>あむ 笑 作咲同又粟之あむモ附クあむ敬源氏  
雨夜物語源とわあむとあひて

あひ 又あひ  
又あひ 醉 詠 倭歌

あうり 回向 栄耀

あめん 衛門 左一右一附ひるあ兵衛世ニ  
あめんあひのあうトカクハ非ナリ

あむむ 回心 俗書三出タリ今あむむト  
云ノ謬トキユ

あ 比

<sup>乾</sup>あ <sup>坤</sup> 坤 日本紀  
西南 ひのえ 丙 十幹ノ字  
他准之

あ <sup>日</sup>日向國 ひれたあま日尾山

あ <sup>琵琶</sup>琵琶湖 近江湖ノ名也  
以テ形ヲ名ケテ

あ <sup>比</sup>比叡山 近江国志賀郡此山ノ名旧事記ニ出タリ桓  
武帝ノ敬慮ニヨルト云ハ訛言也又山ノ内ニ

あ <sup>小</sup>小 一ト云名所有西塔ト横川  
ノ間ナリ又大嶽ヲ大ト一ト云

あ <sup>平</sup>平等院 治 ひ <sup>香</sup>香舎 在禁  
中也



**高祖父** 附ひぢから  
曾祖父

ひひ 又作羔附  
未同訓 ひぢり

聖

ひえぢり ひよどり  
トモ ひぢ

肘 又肱又臂附  
一莖雨又一枕

ひもぢびと 又弱人  
トモ ひを

氷魚 又同訓  
蛭トモ

ひたぬ 朝生タニ  
死虫ナリ ひは

蟲 蚕ノ化  
元也

ひたぬ 二条禪閣  
他ノ書六ひい

ひら 漢汝南人也曾為市極市中老翁授  
之方術見于後漢方術傳

ひえ 三祖 緋 格

ひん 枇把 ひん 海麩  
トモ又伊

ひん 勢物語ニキモ  
古訓ヒスキモ ひん 檳榔

ひん 又藥 ひん 緋桃

ひん 琵琶 胡国ヨリ始ル漢ニ至テ明妃モ彈ゼリ秦ノ  
前ナシ字書ニ近代梁ノ家ニ作トアリ

ひん 雛 源氏紅葉賀ニひんをとりてトアリ又枕草子ニ  
事アリ畧之又鳥ノヒナ俗ニハ

ひん ナト云モ五音相通

ひん 神供也又日本  
紀ニ神籬ト有

ひん 天鵝絨 出所  
未詳 ひん 餅瑠璃  
餅或  
作碧



ひが 古書ハ 醢 又シニト訓又漿耳ノ頃倭魚  
將曹又肉醬之俗ニ塩カラト云

ひさ 瓢柄 びやうぶ 屏風

ひさ ひさぎぬ 衫衣 ひやうもん 狂文 衣文ナリ

ひえん 飛檐 家屋 ひんご 檜皮

ひも ひがトハ野 紐 倭名 ひり 檜標子 俗ニ破子

ひづ 氷頭 本朝式云 年魚

**雑事** ひや ひや 評定 ひよ 偏

ひや ひや 平調 ひと 折

ひと 單 ひも え 一重 又一疊古書此

愚案ニ是ハト可書一ハ單ノ字ノ訓ヲカリテナリ  
一重トカキテハ一カサ子ナリニ又ヨリもえ方之ニ至ニテ皆  
之其モカキ續ル時ハトカク  
古例ニ是單ノ字ノ訓ヲ假故

ひへて 耳聾 肉シキル ひと か 入

ひひ 筆耕 俗一功ト多 ひど 非時

ひや 拍子 古書曰ニほし ひさ 秘藏

ひと 勾引 ひろ 拾

ひ 扣 ひら 泥 土和承也

例四

三



ひょう 費備俗一用 ひいさ 鼻負

ひらりぬ日引折日 古今事類詞書昔ちをひひまがのひらりの日トアリ五月四日賀茂競馬ニ隨身褌ヲ

ニキ折テキルナリ五日ハ左近也但一条ヨリ大官ノ方ヲ右近ト云其ヨリ東ヲ左近ト云嵯峨天皇ヨリ始

ひらぐら 翹 ひえん流る冷終

吉備公毛ノ字ヲトレリ 空海ノ以呂波母ノ字ヲ用

乾坤 かんせいの門司關 豊前名所 蒙古 狄国ノ名也今

韃靼ト云ナリ

毛牆 越王勾踐壁妾ナリ むらえさう 諸兄公 橘氏官左大臣

聖武孝謙 二帝ニカツ 鴟 附一草莖又鴟

生植 もみぢら 紅葉 又緋 もえ 萌 又芽

海雲 和名三水雲 りかぎ 藻鹽草

服器 りせん 毛氈 あさう 盛相 俗物相

鉄 鉄器也又同訓ニ庚ハ衣類ニ用

餅 ろえぎ 萌黄 又絹

旋子 雁鳥ニ用 むゆひ 鬻

甕 又罇又甕 ろくぞう 木像



ろうきう

蒙求

書名也唐天寶年中李瀚作千字文明曾詩合テ三註ト云古代ノ俗學專ニ之ヲ

ららり

致摺

古書如此案未詳みらぬのふららりト云ハ源融公也一ハ奥列信夫ノ名物衣ニ文ヲ摺タル也然文字摺ト可書カト云説アレト云々文ヲ衣ノ惣地摺ト云心カ尚ニル入ニ可尋

問答

問答

もれり

言

もあつふ持弄

もひて

用

もえ

悶

もよがす

催

又促

りとおい

基

もろく

全輪敷

りえ

燃焼

もらふ

囉赤

又餽食又請

もやひ

持相

未詳俗伴合ヒカク

世

世

せうねん 清架井水

山城大原有

せうねん

關藤川

美濃名所

せうや 昭陽舎

在大内

せうや

承香殿

仁壽殿北

せいりやう 清涼殿

中殿也

せん

仙洞

天子之御隱君

せうん

雪隱

禪僧雪豆隱廬大悟スル故事ヨリ云

せうめ

乘馬

せうと

兄

せう

鍾繇

字元常仕魏曹操後漢獻帝之建安二十一年受隸字而造行草之書代之偉人也

気形



せうせう

邵康節

名雍字堯夫名其居曰安樂窩所著書有皇極經世書觀物內外篇漁樵問對詩章伊川曰擊壤集載宋史列傳百八十六道學先生尤精易學俗間之梅花心易謂之先生之傳未見其正據

せいせい 清少納言

肥後守清原元輔之女嘗作枕草子

せいせい 仙翁花

せいせい

升麻

せいせい 青磁

せいせい

燒酒

せいせい

松露

せいせい

簫

舜作之

せいせい

鍾馗

非人倫非鬼神菌之名也今畫圖傳說尤非也可見本艸服器部

雜

せうせう

節會

青馬新等也

せうせう 招請

せうせう

燒亡

せうせう 消息

潮ノ往來ヲ以テ云ナリ

せうせう

詔應樂

壹越調内

せうせう

笑止

俗作笑

せうせう

少又小

せうせう

逍遙

川

せうせう

饒

物ノ多クセリト云時ノ字ナリ

せうせう

丞

又允官ニヨリテ文字替ル地下ノ俗名ニカク此ニツナリ又セウ尉大小アリ武衛金吾ニカクナリ又セウ椽ト云テ諸国ニカク但上中下ノ国ニヨリ六七位ノ上下ノ侍ナリ



せうまろ 稱名 せうろ 消渴 病也

せぶし 耶魯 南蠻國邪法也五雜俎ニ西僧利瑪竇天主ノ祖ト由リ然レハ是モ仏法ノ支流ナリ

す

せぶし 周防國 すすま 洲濱 又糶

すま 住江 攝津 名所 すんせうこ 諏訪湖 信濃 名所

古一ハハノ國ニ天平三年三月日以諏訪國并信濃國ト信濃風土記ニアリ

すま 須磨浦輪 すすんやま 末松山 陸奥 名所 古書

すうろ 菅原 大和 名所

すそわれたの縁輪田井 といづい 透垣

生持 すいりかひを逸人 文集又 數奇人

生植 すひろろ 忍冬 といろろ 蘓枋 又蘓 木氏

とんぼひら末摘花 紅花也又 源氏卷名

すんえ 栝 又楚 トモ すいれき 酸漿草

服器 すい 數珠 又誦珠 氏源氏宇治 卷ニテトモひさなひて

すあふ 青襖 すんせ 陶 といろの泥 今トモ

すあふ 楚割 本朝式魚條古書ニ條楚刻割スハイリトアリイブカニ頼朝御上洛之時佐々木カ許ヨ



リ獻<sup>ハ</sup>楚割返事ニ自筆ノ詠アリマラえ<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>き  
け<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>ち<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>なり<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>委<sup>ハ</sup>東<sup>ハ</sup>鑑<sup>ハ</sup>建<sup>ハ</sup>久<sup>ハ</sup>元<sup>ハ</sup>有

雜事 するほ

直 又廉

すへ

居 雁馬

ずる

誦 とんとん氏源  
氏物語ニ

すさゆ

冷 俗作冷

まよ

吸

すまぬ

栖居 すまぬト云  
時ハ栖

すま

相撲 声ヤウボク然氏スニウニ相通順倭すまひ<sup>ハ</sup>彦<sup>ハ</sup>紹<sup>ハ</sup>巴  
ノ書ヲ用本朝ノ記アリ万葉ニノ使トアリ

すま

礼記月令角力  
又漢武故事角觝

すま

折違 又直違  
又筋違

すま

喟斜

すま

則 又乃  
又即

すま

無詮方

すいて

透

すら

筋 金無ニすトトカク入ニアリ誤ナリ源氏玉<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>う  
ナリすらと<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>ん<sup>ハ</sup>又古今文屋朝康カ  
つ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>ち

すま

捍 又拒伊勢物語  
すまひ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>け<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>も

濟 又救

すま

荒 風雨

すま

修法 源氏楨木  
柱<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>の

すま

方 ハす<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>と  
志<sup>ハ</sup>さ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>げ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>と

すま

圖姓

すら

理 俗筋  
目<sup>ハ</sup>カ

すま

瑞相

すら

寸法

すま

餂 又醃食  
物<sup>ハ</sup>等

すら

末 又季

すま

餂 又醃食  
物<sup>ハ</sup>等

すら

末 又季

すま

餂 又醃食  
物<sup>ハ</sup>等



右假名文字を日中よりくわるて採  
探空海よりて回字なり此類より  
らむしと假名文字と二語の初て作  
しと云いぬす然る昔は用ひし  
可き皆より字を今いふはよ  
るよりてるまはるひ先け例  
いぬざれくつこのごん

假名字例卷四終

大尾

書假名字例後

天下國家間不可無文字文字用  
於戲廣哉此故殊方各有國字朝  
鮮蠻域字覽其形未會其象胥錯  
不論中華文字祖於庖犧氏奇耦  
畫後六書一體興天竺婆羅摩造  
字謂之悉曇有體文有曼陀四聲  
七一音足



倭國字謂之假名有偏假名全假名  
別皆省略中國文字隨簡便也而  
不庸其訓讀第假其聲名狀事物  
故云假名偏假名吉備公造之紀  
五音五位更無異論全假名濫觴  
不知出誰手以呂波長歌造者說  
說不同或曰大<sup>オホ</sup>已<sup>イ</sup>貴<sup>キ</sup>然<sup>ニ</sup>文體句法  
不應其時或曰聖德太子然言者

罕或曰動操空海相謀譯涅槃四  
句得意衆說藉甚其然歟五音五  
位以呂波各雖匪以假名例為主  
意文象一定久不換字列正位難  
交移假名法自確使假名軌範不  
由之何有夫中國上世有韻語未  
分平側迨漢魏六朝其韻多雜無  
定額自梁沈子約出類韻唐人陽



甯公釋處忠等遂宗之分字逐韻  
法律甚嚴

本朝上代假名例未定吉備公造音  
位而法始起且又別有以呂波雖  
人皆由之講習未熟或尚有齟齬  
至藤定家別立母子族類成其凡  
例猶唐人功然知者希矣無慮四  
聲反切皆發人聲自然假名字

不然乎須研窮惟僧明魏謂無格  
不順範可謂放恣世有假名使書  
或託先識名或稱一家傳皆無歸  
至當蓋有之矣我未之見也家兄  
吉里好欲分五音開合淫淄今遭  
國家無事世被勲華澤韻弓擊壤餘  
原於藤氏傳旁探舊記雜誌采掇  
日用切近膚淺易曉假名使輯纂



做一書題假名字例以備庭訓使其子勤真字及註說以非編書本旨未盡試其可否於假名法恐若無有疑難甥夫珍重焉他後其習入神則譯鷄鳴狗吠風聲波音需中華天竺音亦豈遐延寶丙辰秋九月上弦橋保春書  
 延寶六月吉日  
 本屋吉兵衛開板

江戸通本石町



